2020年度
年次報告書

Chance For All

2020年度
活動のお礼と
ごあいさつ

こどもたちの学びと幸福を追求した、コロナとの1年間

2020年度は世界中のほとんどの国でコロナ抜きには語れない1年になったと思います。CFAも例外ではなく、2020年3月に一斉休校からの終日運営が始まり、卒業式もできないまま新年度が始まりました。国は「一斉休校によってかかった費用は全額補償する」と言いましたが、いまだ一円の補助もなく、運営時間の増加やコロナ対策にかかった数百万円の費用は運営費からの負担を余儀なくされました。

そんな中、CFAが運営を継続できたのは間違いなくCFAに関わってくださるすべてのみなさんのおかげです。保護者のみなさんからは刻々と変わる状況の中、運営の休止や時間の変更、感染対策に協力頂いただけでなく、一番苦しい時期に100万円以上の寄付や消毒液などの寄付もいただきました。

寄付者/支援者のみなさんからは苦しい社会的状況にも関わらず、800万円以上のご支援を頂きました。また、マスク、消毒液、こどもたちが使えるおもちゃやIT機器など生活のための物資もたくさんご寄付いただきました。

地域のみなさんも、社会的不安が増し、こどもの権利を無視してこどもたちの活動が制限される中、校舎や公園で元気に遊ぶこどもたちの姿を根気強く優しく見守って下さいました。

CFA職員も、2020年春はまだウイルスに関して未知の部分が多く、医療機関のような対策もとれないまま文字通り命がけの状況での運営。不安も多かったと思いますが、こどもたちの前では笑顔で毎日の保育に取り組んでくれました。

そして、たくさんの我慢を強いられ、苦しい思いをしながらも力強い成長を見せてくれたこどもたち。厳しい時、辛い時、こどもたちの笑顔があるからこそみんな頑張ることができました。

すべてのみなさんのおかげでCFAは成立していることを心から実感し、感謝した一年間でした。

また、こどもたちにとっての幸せとはなんだろうか。機能不全に陥りつつある社会に合わせてこどもたちを教育するのではなく、こどもたちが幸福になる上で障害となっている社会の側の問題を解決するためにはどうしたらよいのか。そんなことについて考え続けた一年でもありました。

2021年度も引き続きこどもたちの”今”と”未来”が幸福であるために、全力で活動していきたいと思います。

特定非営利活動法人Chance For All
代表理事 中山勇魚

2020年度活動のハイライト

TOPIC 1 9校舎、約300人のこどもたちの放課後の居場所に

9校舎目となる綾瀬中央校がオープンし、300人以上のこどもたちが放課後に毎日CFAKidsに通ってくれていました。緊急事態宣言が発令され、閉室とせざるをえないときもありましたが、ほとんどのご家庭に継続して通所いただきました。

TOPIC 2 CFA奨学制度導入 2年目が終了

奨学制度を導入して2年目、多くのかたからのご支援をいただき、2019年度は3家庭だった奨学制度の受け入れ家庭を、2020年度は9家庭まで増やすことができました。CFA奨学制度は「生まれ育った家庭や環境で、その後の人生が左右されない社会をめざす」というCFA設立からの理念をまさに実現するものであり、今後もさらに拡大していきたいと考えております。

※写真は本文とは関係ありません。

TOPIC 3 CFAアセスメント導入

こどもたちを比較評価するのではなく、一人ひとりのこどもの成長を応援していきたい。そんなCFAの考え方から生まれたCFAアセスメント。半期に一度、こども自身が自身の成長を実感するセルフアセスメントと、職員によるアセスメントを行い、保護者面談にて保護者のみなさんに共有しています。ご家庭によっては学校の先生にも共有されて、家庭、学校、放課後に関わる大人たちが同じ目線でこどもの成長を見つめていけるようにされているケースもあります。

コロナ禍での挑戦

新型コロナウイルスの感染拡大によってCFAも大きな影響を受けました。こどもたちの今しかない生活や成長を守っていくために、最大限挑戦した1年でした。

リモート学童

2020年3月の一斉休校、そして4月の緊急事態宣言により、こどもたちの学びの場（学校）と遊びの場（放課後）が奪われているのでは？という危機感から、「こどもたちの遊びと学びの場」を確保しようとリモート学童を開始しました。緊急事態宣言中の3週間、毎日200人近くのこどもたちが参加してくれました。

くわしくは4Pへ

しゃかチャレ ～社会課題にチャレンジ！～

コロナ禍により、修学旅行も遠足も運動会も社会見学も、教室の外の学びがすべて止まってしまったこどもたち。そんなこどもたちに学びの機会を提供したいという想いから、株式会社リディラバ様の協力のもと、社会課題の解決にチャレンジするという半年間のプログラムを実施しました。200人以上のこどもたちが参加し、最終発表では堂々と成果を発表しました。

くわしくは6Pへ

あだちっ子見守りプロジェクト

2020年3月突然の一斉休校を受け、足立区のほかの団体と連携し、困っているご家庭向けにこどもの居場所と食事の提供を行いました。活動の資金を集めるクラウドファンディングを実施したところ、わずか1週間で264人ものかたから90万円以上のご支援をいただきました。

※ 感染拡大の影響で、のちに食事の提供のみに変更。

CFA コロナ禍の挑戦1 リモート学童

2020年3月の一斉休校から朝7:30～の運営を続けていたCFAKidsですが、いよいよ緊急事態宣言の発令の可能性が高まっていました。緊急事態宣言が発令された場合、公立の学童保育は閉室との情報もあり、CFAとしてどうしていくのかを決めていかなくてはなりません。こどもたちのための居場所づくりと感染拡大の防止という正解のない2択になかなか方針が定まりませんでした。

そんな中、3月の一斉休校以来、在宅ワークで学童をお休みしている保護者のかたがたからたくさんの相談をいただきました。休校でずっと家にいるストレスから、ふだんは親子関係が良好な家庭や問題なく生活している子でも困りごとがあちこちで生まれており、学校も学童もない状況が続くことはこどもたちの中長期での成長を考えた時に悪影響であると考えました。具体的には右記の3つです。

放課後は、誰かとの比較評価なんてされずに異年齢の集団の中で思うままに挑戦し、たくさんの経験とたくさんの失敗を楽しむことができる、こどもたちにとって唯一無二の時間です。放課後の時間にこどもたちはたくさん学び、たくさん成長します。

一斉休校によって「学校（学びの場）」「放課後（遊びの場）」「家庭（生活の場）」という「3つの場」で生きてきたこどもたちから「学びの場と遊びの場が失われているのでは？」という危機感から、学童が運営できなくても「こどもたちの遊びと学びの場を確保しよう！」とリモート学童を実施することにしました。

コロナ禍のこどもへの影響

つながりの喪失

社会性を帯びた存在である人間、特にこどもたちは異年齢の関わりの中でさまざまな形でつながりを感じ、人として成長していくもの。学校生活ではなく、放課後の時間や遊ぶ時間まで急に失われてしまうことで、心身の発達に悪影響を及ぼす可能性が高いと考えました。

生活リズムの乱れ

心も体も成長する時期に生活リズムが乱れることで、発達に悪影響があったり、学校再開後にうまく通えなくなったりする可能性があると考えました。

家庭に責任を押し付けない

「保護者がリモートで家にいる」ということは「こどもの学びが保証される」ということではありません。保護者はあくまでも「家で仕事をしている」のであり、休みの日ではないからです。実際に「毎日のように『家で勉強しなさい！』いうやりとりがしんどい」「エネルギーがあり余っていて、まったく言うことを聞かず困っている」といった相談が連日寄せられていました。

おはようございま～す！

アフロマンとハッピー！

CFAのリモート学童に登場するリモート学童案内人。アフロマンの正体はいまだわからないままとか…

リモート学童のプログラム

11:00 特別プログラム → 12:00 昼食 → 13:00 あそびの時間 → 14:00 集中の時間 → 15:00

【全体】

ゲストも登場！日替わりのお楽しみ♪

- おうちDE工作
- チャレンジクッキング
- 新型コロナについてまなぼう！
- ともだちってなあに？
- リモート世界不思議発見
- ものがたりをつくろう！
- セカイの色イロ
- うたで心をつなごう！
- ちがいをたのしもう！
- 色にまつわるものがたり
- まみこのじっけんしつ

など

【各校舎にわかれて】

各校舎にわかれて遊びの時間

リモートしりとりやリモート誕生日会などの王道から、リモート色鬼「わたしの大切なものなーんだ？（家の中で大切なものをあてて紹介）」などリモートならではの遊びも。3週間で100以上のリモート遊びが生み出されていました！上級生は自分たちだけでブレイクアウトルームにこもって久しぶりのおしゃべりに興じていました。

宿題や工作、自分の課題に取り組む時間

ミュートでお互いが集中している姿を見ながら取り組む場を用意。予想以上に真剣に取り組んでくれ、たくさんの保護者から「怒らないで終わった1日なんて初めてです！」というううれしい声を多数いただきました。

CFAがリモート学童でも大切にしていたこと

放課後はこどもたちが社会を経験し、自立していくための準備の場所

もともとCFAが考える学童保育とは、単なるこどもの預かり場所ではなく、こどもたちが成長していく居場所。実際にこどもたちを預かることができなくて価値がなくなるなら、それは今まで私たちがやってきたことが嘘になるということ。そんな覚悟でリモート学童を行いました。

実際にリモート学童をやってみて感じたことは、リモート学童で大切にしたことと、ふだんの学童でも大切にしていることは同じだということでした。

こどもがこどもでいられる時間を大切にする

リモート学童がスタートしてしばらくし、こどもたちがどんどんPCやタブレット、スマホの取り扱いに慣れてきて起きたのが「チャットが荒れる事件」です。

「死ね」「ばーか」「じゃんふぇｓｂｆんわげんｇｓ」などの言葉がチャット上で送られてきます。

私たちは何をしたか。何もしませんでした。

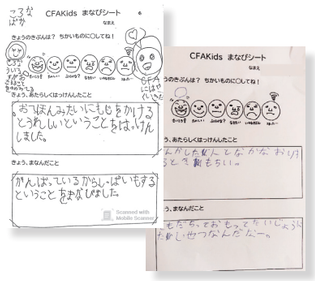
こどもたちは普段から学校での自分、学童での自分、家での自分を使い分けていて、こういった言葉をこどもたちの中だけでは使っていたりするのです。そういった顔の使い分けもできず、24時間家庭の中にて「家での自分」だけでいるのはこどもたちにとって大変なこと。リモート学童の中では「友だちといるときの自分」を開放してほしくて、チャットは自由に開放していました。

※ あまりにも意味不明な言葉を連打してチャットを占拠し、他の子の迷惑になる時は「どういうことがしたいの？」と個別にやりとりをしました。

一人ひとりの子と個別で向き合えるしかけをつくる

家の中での学びを可視化するために「まなびシート」を作りました。今日の気分、新しく発見したこと、今日学んだことを書いて、写真かスキャンで送ってもらい、職員がひとりひとりへ返事を書くというものです。

このシートによって、リアルタイムで発言できない子も、離れていてもつながっているという感覚をもつことができたのではないかと考えています。



こどもはうまくいかなかったことからもたくさん学ぶ

こどもたちの自由を大切にリモート学童をやっていると、時おりリモート越しにこどもたちのケンカが始まります。

ちょっとした誤解やすれちがいから言い合いが始まるのですが、気に入らないことがあって退室してしまう子がいたり、こどもだけで解決できなくなったときはブレイクアウトルームに職員とこども3人で入ってじっくり話し合ったり。

私たちはこれがとても大切なことだと思っていました。逆に言えばこどもたちは友達とケンカするという経験すらできていなかったということ。自分の思いと友だちの思いが異なってぶつかったり離れたり、話し合って解決したり解決できなくてもんもんしたり。こどもたちはそういう心を動かされる経験から非常に多くのことを学んで、人として成長していきます。うまくいかなかったことからもたくさんのことを学んでいるのです。

権威性を手放して、こどもと一緒に失敗を楽しむ

授業しなれた学校の教室や、運営しなれた学童の部屋からリモートに移行すると、わからないことや失敗だらけです。うまくやろう、無難にこなそうと思うと難しいですし、吸収の早いこどもたちにすぐに見抜かれてしまいます。知らず知らずのうちに身にまとっていた権威性を手放して、「こどもと一緒に失敗を楽しむ！」という気持ちが大切だと思って、運営していました。

CFA コロナ禍の挑戦２

しゃかチャレ～社会課題に挑戦！～

supported by 株式会社 Ridilover（リディラバ）

コロナ禍によって、教室の外に出る学びがすべて止まってしまったこどもたち。仲間たちとともに同じ目標に向かう経験、社会とつながる経験、出会ったことのない人と出会う経験。こどもたちの想いとは関係なく奪われていく成長の機会。「コロナ禍でのこどもたちの学びの可能性とは？」を突き詰めて、社会課題に向き合っているプロであるRidilover（リディラバ）と一緒に半年という時間をかけて、こどもたちが社会課題の解決に挑戦するプログラムを行いました。

半年にわたるプログラム

① 社会課題を知る

・社会課題はみんなの困りごと
・困っている人だけのせいではない
・身の回りの困っている人を探そう

② 取り組むテーマを決める

・自分たちがやってみたいと思うのは
　なんだろう？なんでだろう？
・チームで合意形成しよう

③ 計画を立てる

・自分たちが実現したい社会から
　解決方法を考えよう
・いろいろな人にインタビューしよう

④ 中間発表

・他のチームの発表を聞いて様々な
　社会課題を知ろう！
・よりよくするためのアドバイスをもらおう

⑤ アクション

・地域に出よう、大人を巻き込もう

⑥ 最終発表

・これまでやってきたことを
　堂々と発表しよう！

こどもたちの最終アウトプット

約200人、22チームのこどもたちがすばらしい最終発表を行いました。ごく一部をご紹介します。

ゴミ問題にチャレンジ

公園のゴミ拾いに始まり、ゴミ回収の大変さやゴミの行く末を調べました。その内容を紙芝居にして広めるべくさらに研究する中で、より具体的にゴミを減らす提案をまとめあげ、小池都知事に提案の手紙を書いたところ、受け取っていただくことができました。

地球温暖化にチャレンジ

地球温暖化の原因や対策を学び、それをポスターに。校舎の近所のお店やお家、保育園に掲示。保育園で「地球温暖化ってなに？」との質問があるなど、ポスター効果が広まりました。また区の助成金の申請が通り、エコバックを作成・配布予定です。

海洋ゴミのポイ捨て問題にチャレンジ

「海の生き物が困っていることをたくさんの人に広めたい！」という想いで、劇を作成。海の魚がプラスチックを食べてしまっている事実をわかりやすく伝える物語が完成。Youtube配信にも挑戦しました。

フードロスにチャレンジ

学童のおやつの残量を計測し、残した量で何人の命が救われるのか計算。同じ校舎のこどもたちにその事実を伝えることで、発表前の３週間では合計５kg以上あった残食が、発表後の３週間では１kg程度に減りました。

自分たちが変えていくのだという こどもたちから生まれるエネルギーはすごい！

始まる前は当然「社会課題」という言葉すら知らなかったこどもたち。大人にも難しいことなのに、自分たちにできることなんてあるのか、自分たちがする小さなことなんて意味があるのかと感じていました。
でも、プログラムを通じて、「すぐに変えることはできないかもしれないけれど、今自分にできることがあるかもしれない」「１人では難しくてもみんなを巻き込めばできることがある！」と１人ひとりがしっかりと考えて行動していました。大人が言うからやるではなくて、こどもたち自身の「やりたい！世界を変えたい！」という想いから生まれるエネルギーには可能性しか感じられませんでした。

社会課題に対してのアンテナが高く、アクションが続いている！

お誕生日にトングを兄妹で買ってもらい、外遊びに行くときにゴミ拾いしたり、学校の自主学習でしゃかチャレの延長としてゴミ拾いをしたりと、しゃかチャレが終わっても社会課題に対してアクションする姿が見られています。また、ひとつひとつの誰かの行動や出来事に対して、それを社会課題と結びつけて考えたり、自分たちで引き続きゴミ拾いをしたりと自発的なアクションが行われています。
こどもたちから「（半年間のプログラムは終わっても）しゃかチャレは終わらないよ！」という言葉も！

しゃかチャレを通じてみえたこどもの成長！

メンターさんとやりとりしたい！だから ローマ字を覚えたいし、タイピングも練習したい！

こどもたちはメンターさんとの日々のやりとりをSlackで行っていました。
ローマ字を学校で習うのは小学３年生になってから。でも「メンターさんとやりとりしたい！」という気持ちのもと、こどもたちはどんどんローマ字を習得していきました。
２年生や３年生のこどもたち同士の「"じゃ"って"ZYA"？だっけ？」「"JA"のほうが早い？」なんていう会話も聞こえてくれば、校舎を越えてこどもたち同士でタイピングの点数ランキングを競っているシーンも。こどもたちは目的があれば、どんどん成長していくのだと感じさせられます。

こどもたちの熱意は大人を動かす

しゃかチャレのこどもたちの行動は、大人の意識にもたくさんの影響を与えました。
家庭内で「フードロスやごみ問題などの社会課題に関することが話題にのぼるようになった」「こどもたちがここまで社会をよくするために行動していたことに感動し、大人も社会課題について考えるきっかけになった」という保護者の声。
こどもたちが制作したポスターを近隣の店舗のかたが掲示してくださったり、地域の商店会長がこどもたちの頑張りに協力してくれて、公園課にかけあってくださって地域の公園にポスターを貼り出してくれたりなど、地域のかたを巻き込んだ活動となりました。

伴走していた大人から

こどもたちから多くのことを学ぶきっかけになった

こどもたちが、大人も解決できていない社会課題に挑む。
最初は私自身すら大丈夫かなと、期待と不安が入り混じっていました。
しかし実際には、こどもたちが悩み喧嘩もしながら半年間努力し、「小学生にしてはすごい」ではなく、ひとりの人間として尊敬できるようなアクションをしてくれました。
コロナによって様々な機会を失ってしまったこどもたちに、何かできたらとの気持ちで始めた「しゃかチャレ」ですが、結果として私自身もこどもたちから多くのことを学ぶ機会になりました。

リディラバ担当 鈴木 哲平さん

こどもには無限ののびしろがある

しゃかチャレにメンターとして参加してみて、よく使われる言葉ですが、『こどもたちの無限の可能性』を再認識する機会となりました。
大人は今まで経験してきた物差しで、「こどもたちができるのはこのぐらい」と勝手に限界値を定義してしまいがちです。でも、そうではなく、こどもたちが自ら学び自ら導き出すことをサポートしてあげることで、「いくらでも伸びしろがある」ということをメンターという近い場所で見届けることができました。これからは、自分のこどもに接する際にも意識したいと思います。

メンター 田中 貴史さん（会社員）

CFA 2020年度の取り組み

CFAアセスメントを導入。一人ひとりの成長の見える化を実現。

読み書きや計算といった計測できる能力ではなく、計測できない非認知能力の成長をめざし、成長の過程や発達のでこぼこを見える化したものです。ほかの人との比較に用いるものではなく、個人の成長を可視化するためのもので、こどもによるセルフアセスメントと大人によるアセスメントを行います。

たとえば、「自ら学ぶ」という項目なら、「やらされて学ぶ（STEP 1）」から、「計画的に学ぶ（STEP 2）」、「向上心を持って学ぶ（STEP 3）」を経て、最終的には他者との比較ではなく、自分自身のために必要なことを理解し、「幸せになるために学ぶ（STEP 4）」ことができるようになることをめざします。

CFAKidsがはぐくむ5つの力

CFAKids保護者へのアンケートを実施。CFAは多くの保護者のかたの相談相手になることができているという結果に。

CFAがめざす「生まれ育った家庭や環境で、その後の人生が左右されない社会の実現」のためには、子育て家庭が孤立しないことが非常に重要だと考えています。そのために必要なのは、その子育て家庭の状況を理解してサポートしてくれている人、子育て家庭にとっての相談相手が存在するかということです。

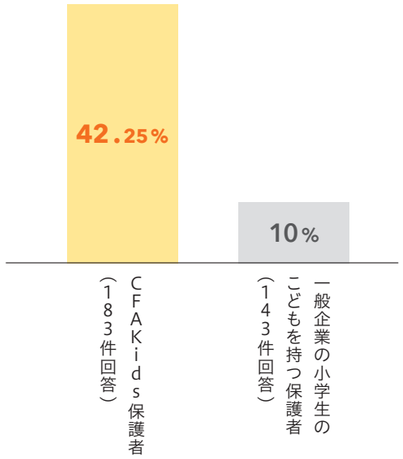
一般企業と共同で実施したアンケート調査で、「子育てに困ったとき、誰に相談しますか？」という項目に対して、一般企業では「学童の先生」と回答した方が10％だったのに対して、CFAKids保護者は42.25％という結果に。

残りの6割の中には現在、子育てに困っていないという家庭も含まれますし、実際に「困った時にCFAKidsの先生に相談して解決できたので今は困っていない」「特に困っていないので夫婦以外ではあまり話さない」という回答もありました。

CFAがめざしている「保護者とともにこどもたちの成長を見守る」という役割を一定程度果たせているという結果を得ることができて大きな励みとなりました。

子育てに困ったときに誰に相談するか

▶ 学童の先生に相談すると答えた割合



日々保護者のかたといっしょにこどもたちと向き合い、こどもの成長を信じ続けています。

CFAKidsが日々大切にしているこどもたちとの関わり方のひとつに「1:30ではなく、1:1×30」という考え方があります。こどもたちを集団としてとらえるのではなくて、こどもたちひとりひとりのことをよく観察して、ひとりひとりに向き合おうというものです。集団として捉えるとどうしても行動を制限することにつながり、それは成長をも制限することになるからです。

今回はあるひとりの子に関するエピソードをご紹介します。

Aくんが2年生だったころのこと。放課後CFAKidsで過ごす時間はとても情緒不安定なことが続いていました。すぐに叫んでしまったり、モノに当たったり、暴力的な言葉を発したり。Aくんが行動する基準が「怒られるか、怒られないか」というものになってしまっているのも気になるところでした。

じっくり話を聞いてみたところ、学校やお家で毎日のように怒られているとのこと。仕方なくお家や学校では怒られないようにおとなしくいい子に過ごそうと頑張った結果、ストレスがたまってしまって、爆発してしまう。それを聞いた保護者は責任を感じてまた怒ってしまうという悪循環が続いていました。

保護者とCFAKidsの職員で面談をして、Aくんの現状をお伝えしました。事前にAくん本人にも保護者面談をすることを伝えて、伝えてほしいことがあったら代わりに伝えるよと話をしたところ、「毎日怒られていてつらい」「習い事をやめたい」と思っていることを伝えてくれたので、Aくんの気持ちをメモにして保護者に見ていただきました。直接言うことができなかったのはAくんなりに保護者からの期待を感じていたり、認めてもらいたいという気持ちがあったから。

Aくんの思いを知った保護者と今後の方針について話し合い「CFAKidsで注意されたことに対して家でまた怒ることはしない」「やりたくないのに続けさせていた習い事は辞める」「いいところを見つけて、お家でたくさん褒めてあげる」などを決めました。

面談後も保護者と密にやりとりする中で、Aくんは行動がだんだん落ち着いていきました。「あ、今物を投げそうだった」と自分で自分の行動を客観的に考えられるようにもなっていき、3年生になったときにはまるで別人のように落ち着いて毎日の生活を楽しめるようになりました。

CFA奨学制度の導入2年目を終えて

CFA奨学制度とは

「お金がある家庭の子もお金がない家庭の子も同じように豊かな放課後の時間の中で成長できるように」という想いで、困難家庭を対象に保育料や食事代金、行事料金等無料でCFAKidsに通うことのできる制度です。

文字通り「すべてのこどもたち」が空間をともにし、遊びをともにし、食事をともにし、交わりあいながら生きていく。互いに異なる環境に生まれながらも、お互いのちがいを認識し、理解し、受け入れられながら生きていくことをめざし、2019年度より制度を開始いたしました。

奨学制度を利用されているかたの声

※ 一部抜粋。また、個人が特定されないように一部に編集を加えています。

CFAKidsを利用してよかったこと

「奨学制度があったからCFAKidsに通うことができました。」「奨学制度を利用することで、フルタイムの仕事をすることができています。」「塾や習い事など、こどもの可能性を広げられる選択肢を増やすことができています。」という経済面からよかったと言っていただいたほかにも、「精神面・経済面ともにとても助けられています。」「熱意ある先生に見ていただくことが、安心感につながっています。」「先生や友だちからたくさんの刺激をもらって成長しています。」と、精神的なサポートやこどもの成長についての感謝のお声もいただきました。

寄付者のかたへのメッセージ

いつもお世話になり、大変ありがとうございます。
奨学制度を利用するにあたり、非常に悩みましたが、こどもの〝CFAKidsに行きたい〟との一言でお願いする決心をし、現在に至ります。
一時期、自分自身が望んでいない環境の中、どのようにこどもを育て、守るのか真剣に考え悩んでおりましたが、奨学制度を利用させていただいたことで視野が広くなったと感じております。
こどもはまだ詳しいことは知りませんが、理解できる時期が来たら、たくさんの方々に支えていただいた事を必ず伝えようと思います。
そして、感謝と恩返しができる人に成長して欲しいと願っています。

私のこどもには、夢があります。その夢を叶える為に、日々学んでいます。
大人になって、自分の幸せだけではなく、人の為にも自分を生かしたいという選択を考えるようになりました。
たくさんの方に支えられて、今があります。直接お礼をいうことはできていませんが、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

CFAをご支援いただいているかたがた

ソニーグループ株式会社

これまでにも遠足の受け入れやプログラミング教材MESH™（メッシュ）を活用したワークショップの実施など、さまざまなご支援/ご寄付をいただいてきました。ソニー様が2020年4月に設立された「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」を活用し、感染症の影響により体験機会を失っているこどもたちに豊かな体験を届けることを目的として、CFAKidsに、ロボット・プログラミング学習キットKOOV®（クーブ）及びタブレットを各20台、IoTブロックMESH™（メッシュ）20台等をご寄付いただきました。

ソニーグループ株式会社
サステナビリティ推進部
CSRグループ
シニアマネージャー（当時）
岡田 康宏さん

Chance For All様が大切にされている生まれ育った家庭や環境で左右されない社会を目指すという方針に基づく学童運営や困窮世帯を対象とした奨学金制度などの取り組みに深く共感し、2020年より連携させていただいております。
ソニーグループでは教育格差縮小に向けた取り組み「感動体験プログラム」を展開しておりますが、そのプログラムの一環として、CFAKidsに通われるこどもたちにワークショップを実施したり、ソニーグループのプログラミング教材を寄贈し、こどもたちにプログラミング体験をお届けしています。
これからもこども/放課後に関する幅広い知見とノウハウを有しておられるChance For All様とのパートナーシップのもと、次世代を担うこどもたちをサポートし、創造性や好奇心を育む機会を提供して参りたいと思います。

株式会社リディラバ

社会課題に向き合うプロとして、「しゃかチャレ」を一緒に企画・運営していただきました。また、リディラバのオンラインコミュニティ「リディ部」のみなさんにメンターとして、半年間こどもたちと伴走していただきました。

代表
安部 敏樹さん

リディラバでは創業以来、中高生と社会課題の現場を繋ぐ教育旅行を展開していますが、小学生のこどもたちと社会課題を結ぶ取り組みは「しゃかチャレ」が初めてでした。どうすれば小学生という年代のこどもたちに、彼ら彼女ら自身が課題意識を持った上で、それが社会としての、みんなの課題なんだと実感するよう導くことができるのか。この難題に対してCFAの皆さんは「こどもたち自身が答えを考えるよう、伴走する」というスタンスでこどもたちに接し、共にプログラムを走り切って下さいました。そしてこどもたちは、それぞれが向き合ったテーマを自分のこととして考え、素晴らしいアクションを導き出してくれました。リディラバにとっても大きなチャレンジができ、とても感謝しています！

株式会社フィッツコーポレーション

手指消毒剤を10,800本寄贈いただきました。CFAのほかにも学童保育施設、幼稚園、学習支援団体などにも、CFAの紹介で寄贈いただきました。

NEC

CFAKidsで行っている集中の時間（宿題やそれぞれの学習をする時間）に、ZOOMをつなぎ、ボランティアの方にオンライン上で見守りをしていただきました。
また、子育てと仕事の両立に関するアンケート調査の企画にご協力いただきました。

セガサミーホールディングス株式会社

しゃかチャレの最終発表の際に、しゃかチャレ参加者であるこどもたち全員へのプレゼントと、本社を発表会場としてご提供いただきました。

こどもの声・保護者の声

CFAKidsに実際に通っているこどもたち、保護者のかたの声をご紹介します。

こどもたちの声

CFAKidsってどんなところ？

- 放課後にいろんな学年と遊べる場所。学校ではどっちかというと学年、クラスごとだけど、学童は他の学年と自由に遊べるのがいいところ。年下と関わると自分のコミュニケーション力が上がる。面倒みるのも楽しいし、１年生はかわいい。夏祭りとか、こどもたちが考えて活動できる場所。
- 自由になれる場所！キャンプ、しゃかチャレとか、学校とかじゃできないことができる！
- 下級生も上級生もみんなで遊べる。世界の情報交換のこども版！
- 居心地のいい場所。楽しいって感じられる場所。

CFAKidsに入ってよかったなと思うことは？

- おやつが手作りで美味しいところ。
- 今までできないことができるようになった！話し合いをまとめられるようになった！
- キャンプに行ける、サバイバルがある、たくさん遊べる！
- けんかしても話をしてちゃんと仲がよくなれるから大丈夫って思えること。
- 勉強の時間は取れるし、遊ぶ道具とかもあるし、なんて言うんだろ…くつろげる場所。
- 全て終わらせれば寝ることもできる。全て終わったら自由だから。

コロナ禍で過ごすCFAKidsはどう？

- コロナ禍だからこそCFAKidsがあってよかった。図書館も行けないし、行く場所なかった時にCFAKidsに行けたのがよかった。
- できないこともあるけど、だからこそ工夫して遊んだりできるからいいと思う。
- おやつのときにしゃべれないのは寂しいな。マスクをすることがあって表情が見えないのは寂しいな。消毒って、手が荒れることが心配。
- みんなで笑って過ごせるようになりたい。コロナを終わらせたいとみんな思っている。

卒業生の保護者のかたの声

親がいちばん不安だったので、いつでも相談できる人がいるということが、本当に心の支えでした。こどもたちの心のよりどころであり、親にとっても心のよりどころでした。
親がこれでいいのかなと思っていることについては「これでいいんですよ、こどもってそんなものですよ」って言ってくださる一方で、こどものいいところもすごくたくさんほめてくださいました。たくさんの目で育てていただいたことに非常に感激していて、本当になくてはならなかったです。

１年生から丸４年お世話になりましたが、CFAで過ごした時間はとてもよかったです。いろんな同級生たち、上の子や下の子と関わる機会というのがなかなかなくて、本当にこどもたち同士が自分で決めて活動をしていました。
先生から聞くお話では、下級生の面倒を見たりとか、ものを決めるときにぐいぐいひっぱったりというシーンがあるらしいのですが、家にいたら想像つかないので、先生やCFAKidsの環境に引っ張っていてもらっているのだろうなと思います。CFAKidsはこどもがこどもらしく成長する機会があるのが本当にすばらしいと思っています。

2020年度 決算報告

（単位：円）

科目	金額
1.　受取寄附金	
受取寄附金	9,193,146
2.　受取助成金等	
受取民間助成金	3,000,000
3.　その他収益	
保育料収入	123,812,903
経常収益計	136,006,049
1.事業費	
（1）人件費	
給料手当	68,476,913

科目	金額
法定福利費	13,242,347
人件費計	81,719,260
（2）その他経費	
その他経費計	47,253,281
事業費計	128,972,541
経常費用計	128,972,541
当期経常増減額	7,033,508
税引前当期正味財産増減額	7,033,508
当期正味財産増減額	7,033,508
前期繰越正味財産額	-12,016,366
次期繰越正味財産額	-4,982,858

2020年度の延べのこどもの利用者数　**45,564人**

コロナ禍の緊急事態宣言中、CFAKidsが始まってはじめて閉室にせざるを得ない時期もありましたが、結果としてほとんどのご家庭にご継続いただきました。また、低学年を中心に毎日のようにCFAKidsに通うこどもたちがメインですが、団体設立から８年目となり、高学年になったこどもたちが、スポットでの利用やキッズボランティア（運営のアシスタント役）といったさまざまな関わり方で、CFAKidsを利用してくれています。

▶ いただいた寄付金額の推移

2018年度	428,200円
2019年度	5,507,529円
2020年度	9,193,146円

2019年度より開始したCFA奨学制度のため、2019年度、2020年度と寄付金額が大きく伸長しています。将来的には寄付を原資として、奨学制度を希望する家庭をすべて受け入れていきたいと考えています。

▶ 2020年度の寄付金の使途

2021年度活動費	2021年度奨学制度予算
500万円	約420万円

※ 駄菓子屋開設等

30万円
※ 助成金より補填

2021年度計画

「生まれ育った家庭や環境で、その後の人生が左右されない社会の実現」という理念を掲げ、2020年度までは
こどもたちの豊かな放課後の時間をつくっていくために学童保育CFAKidsを運営してきました。2021年度から
は、理念の実現により近づくべく、活動の幅を広げてまいります。

CFA学生チームによる駄菓子屋事業スタート

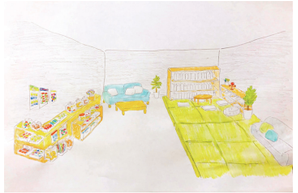
学童保育の運営を通して感じ続けてきたのが、学童保育には、通うこどもや保護者と深く密接な関係を築ける強みがあるものの、保護者からの申し込みが必要というハードルがあるということ。そして、学童や小学校を卒業していった後に気軽につながる機会や場所が少ないということでした。

こどもたちが自由に行き来できる、こどもが自分らしくいられる場所を作りたい。

そんな思いからわたしたちは、足立区・関原に、こどもたちが自分自身の意志で通える「無料の居場所」として、大学生が中心となって運営する駄菓子屋「irodori」を作ることにしました。

2021年5月から6月にかけて実施したクラウドファンディングでは365名のかたから422万円ものご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

駄菓子屋「irodori」は7月17日に無事にオープンしています。ぜひ遊びに来ていただき、駄菓子屋「irodori」を応援していただければと思います。



奨学制度の拡大をめざして

2019年度にスタートしたCFA奨学制度も2021年度で導入から3年目となります。文字通りすべてのこどもたちが同じ場所で同じ時間を過ごすことで、CFAの掲げる理念の実現をしていきたいと考えております。2030年には現在のこどもの貧困率である15%のこどもたちが奨学制度を利用してCFAKidsに通ってくれることをめざしています。

※写真は本文とは関係ありません。

放課後のソーシャルワークの見える化スタート

※写真は本文とは関係ありません。

ソーシャルワークとは、地域社会で暮らす多様な人々が抱える困難を解消することや、幸福な生活の実現を支援していくことです。CFAが担っている放課後のソーシャルワークを見える化、明文化し、放課後の時間が子育て世帯に及ぼす可能性について、世にもっと広く知ってもらうことに挑戦していきます。

あなたにあった方法で

「生まれ育った家庭や環境で、その後の人生が左右されない社会の実現」をいっしょに。

CFAがめざす社会の実現のために、ぜひさまざまな方法でご支援ください。
いっしょにめざす社会を作っていきたいと考えております。

寄付で支援する

継続して寄付する（マンスリーサポーター）▶

今回のみ寄付する ▶

CFA奨学制度を広げていくためには継続的なご支援が必要です。マンスリーサポーターになるためには月1000円から始められます。

お好きな額を寄付いただけます。

※銀行振込も可能です。詳細はホームページをご覧ください。
※奨学制度については9Pをご覧ください。

物品寄付で支援する

小学生向けの本やおもちゃ、校舎備品などの物品寄付を受け付けています。
現在寄付を受け付けているものについては
QRコードからホームページをご確認いただき、
donation@chance-for-all.orgまでご連絡ください。

※状況によって、お断りする場合もございます。あらかじめご了承ください。

CHECK!
https://www.chance-for-all.org/donationtop

ボランティアとして支援する

こどもたちと一緒に自由に過ごしてください。
たくさんのかたに関わっていただくことでこどもたちの放課後がより豊かなものになります。

プロジェクトをつくって支援する

（主に法人のかた）

- 一緒に商品開発をする
- 一緒にイベントを開催する（遠足、会社見学、工場見学など）
- こどもたちとプログラムを行う（STEAM教育、社会課題解決プロジェクトなど）

まずはinfo@chance-for-all.orgまでご連絡ください。

イベントに参加する

イベントにご参加いただき、ぜひCFAの活動を知っていただければと思います。▶

CFAの活動を知る

SNSをフォローいただき、私たちの日々の活動を知っていただくことも私たちの力になります。▶

Facebook　Twitter　Instagram

あそびこそ
さいこうのまなび

この年次報告書のデザインは、
インクデザイン合同会社さまにご担当いただきました。
ステキなデザインを、ありがとうございました！

生まれ育った家庭や環境で
その後の人生が左右されない社会の実現

Chance For All

特定非営利活動法人　Chance For All

〒123-0852　東京都足立区関原3-15-4
E-mail：info@chance-for-all.org